



IM and Presence Service 設定の可用性とインスタントメッセージ

- [IM and Presence Service の可用性の設定, 1 ページ](#)
- [IM and Presence Service の IM 設定, 5 ページ](#)

IM and Presence Service の可用性の設定

IM and Presence サービス クラスタのプレゼンス ステータス共有のオン/オフ

この手順では、IM and Presence Service クラスタのすべてのクライアントアプリケーションにおけるプレゼンス ステータス共有をオンまたはオフにする方法について説明します。

プレゼンス ステータス共有は、IM and Presence Service でデフォルトでオンになっています。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)]>[プレゼンス (Presence)]>[設定 (Settings)]>[標準設定 (Standard Configuration)]を選択します。

ステップ 2 プレゼンス ステータスを設定します。次のいずれかの操作を実行します。

- IM and Presence Service クラスタでのプレゼンス ステータス共有をオンするために、[プレゼンス ステータス共有の有効化 (Enable availability sharing)]のチェックボックスをオンにしてください。この設定をオンにすると、IM and Presence Service では、ユーザのポリシー設定に基づいて、クラスタ内のすべてのユーザ間でそのユーザのプレゼンス ステータス情報が共有されます。

ユーザのデフォルトのポリシー設定では、他のすべてのユーザがそのプレゼンス ステータスを表示できます。ユーザは、Cisco Jabber クライアントから、ポリシー設定をします。

- IM and Presence Service クラスタですべてのクライアントのプレゼンス ステータス共有をオフするために、[Eプレゼンス ステータス共有の有効化 (nable availability sharing)]のチェックボックスをオフにしてください。この設定をオフにすると、IM and Presence Service では、IM and Presence Service クラスタ内の他のユーザとプレゼンス ステータスが共有されません。また、クラスタ外から受信したプレゼンス ステータス情報も共有されません。ユーザは自分のプレゼンス ステータスだけを表示できます。

ステップ 3 [保存 (Save)]をクリックします。

ステップ 4 次のサービスを再起動します。

a) Cisco XCP Router

b) Cisco Presence Engine

- ヒント**
- プレゼンス ステータス共有をオフにすると、ユーザは、クライアントアプリケーションで自分のプレゼンス ステータスを表示できます。その他のすべてのユーザのプレゼンス ステータスはグレー表示されます。
 - プレゼンス ステータス共有をオフにして、ユーザがチャットルームに入ると、そのプレゼンス ステータスは、緑色のアイコンで「不明」ステータスを示します。

一時的（アドホック）プレゼンス サブスクリプションの設定



(注) これらの設定で、ユーザ連絡先リストにないユーザに一時的（アドホック）プレゼンス 登録を開始できます。

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)]>[プレゼンス (Presence)]>[設定 (Settings)]>[標準設定 (Standard Configuration)]を選択します。
- ステップ 2** Cisco Jabber ユーザ用の一時的（アドホック）プレゼンス サブスクリプションをオンにするために、[一時的（アドホック）プレゼンス サブスクリプションを有効にする (Enable ad-hoc presence subscriptions)]のチェックボックスをオンにします。
- ステップ 3** IM and Presence Service が一度に指定する実行中の一時的（アドホック）プレゼンス サブスクリプションの最大数を設定します。ゼロの値を設定する場合、IM and Presence Service は実行中の一時的（アドホック）プレゼンス サブスクリプションを無制限に許可します。
- ステップ 4** 一時的（アドホック）プレゼンス サブスクリプションの存続可能時間値（秒単位）を設定します。

この存続可能時間値が経過すると、IM and Presence Service は一時的（アドホック）プレゼンス サブスクリプションをドロップし、そのユーザのプレゼンス ステータスを一時的にモニタしなくなります。

(注) ユーザがまだ一時的（アドホック）プレゼンス サブスクリプションからのインスタントメッセージを表示している間に存続可能時間値が経過した場合は、表示されるプレゼンス ステータスが最新でないことがあります。

- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。
この設定のために IM and Presence Service のどのサービスも再起動する必要はありません。ただし、Cisco Jabber ユーザは、サインアウトしてからサインインし直して、IM and Presence Service の最新の一時的（アドホック）プレゼンス サブスクリプション設定を取得する必要があります。

ユーザごとの連絡先リストの最大サイズの設定

ユーザの連絡先リストの最大サイズを設定できます。これはユーザが連絡先リストに追加できる連絡先の数です。この設定は、Cisco Jabber クライアント アプリケーションとサードパーティ クライアント アプリケーションの連絡先リストに適用されます。

連絡先の最大数に到達したユーザは、連絡先リストに新しい連絡先を追加できず、他のユーザもそのユーザを連絡先として追加できません。ユーザが連絡先リストの最大サイズに近く、最大数を超える連絡先を連絡先リストに追加すると、IM and Presence Service は超過した連絡先を追加しません。たとえば、IM and Presence Service の連絡先リストの最大サイズが 200 であるとします。ユーザに 195 件の連絡先があり、ユーザが 6 件の新しい連絡先をリストに追加しようとする、IM and Presence Service は 5 件の連絡先を追加し、6 件目の連絡先を追加しません。



ヒント

連絡先リストのサイズが上限に到達しているユーザがいると、Cisco Unified CM IM and Presence の管理の [システム トラブルシュータ (System Troubleshooter)] に表示されます。

IM and Presence Service にユーザを移行する場合は、ユーザ連絡先リストのインポート中に連絡先リストの最大サイズと最大のウォッチャの設定を無制限に設定することを推奨します。これは移行された各ユーザ連絡先リストが完全にインポートされることを保障します。すべてのユーザが移行した後、連絡先リストの最大サイズと最大のウォッチャの設定を優先値にリセットできます。

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)] > [プレゼンス (Presence)] > [設定 (Settings)] を選択します。
- ステップ 2** [連絡先リストの最大サイズ (ユーザごと) (Maximum Contact List Size (per user))] 設定の値を編集します。
デフォルト値は 200 です。

ヒント 連絡先リストのサイズを無制限にするには、[無制限 (No Limit)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 4 Cisco XCP Router サービスを再起動します。

関連トピック

[Cisco XCP ルータ サービスの再起動](#)

ユーザごとの最大ウォッチャ数の設定

ユーザのウォッチャの数、特にユーザのプレゼンス ステータスを表示するために登録できるユーザの最大数を設定できます。この設定は、Cisco Jabber クライアントとサードパーティクライアントの連絡先リストに適用されます。

IM and Presence Service にユーザを移行する場合は、ユーザ連絡先リストのインポート中に連絡先リストの最大サイズと最大のウォッチャの設定を無制限に設定することを推奨します。これにより、移行した各ユーザ連絡先リストが完全にインポートされます。すべてのユーザが移行した後、連絡先リストの最大サイズと最大のウォッチャの設定を優先値にリセットできます。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)] > [プレゼンス (Presence)] > [設定 (Settings)] を選択します。

ステップ 2 [ウォッチャの最大数 (ユーザごと) (Maximum Watchers (per user))] 設定の値を編集します。デフォルト値は 200 です。

ヒント ウォッチャの無制限の監視を許可するには、[無制限 (No Limit)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 4 Cisco XCP Router サービスを再起動します。

IM and Presence Service の IM 設定

IM and Presence Service クラスタのインスタントメッセージのオン/オフ

この手順では、IM and Presence Service クラスタのすべてのクライアントアプリケーションにおけるインスタントメッセージ機能をオンまたはオフにする方法について説明します。インスタントメッセージ機能は、IM and Presence Service でデフォルトでオンになっています。



注意

IM and Presence Service のインスタントメッセージ機能をオフにすると、すべてのグループチャット機能（アドホックおよびパーシステントチャット）が IM and Presence Service で動作しません。Cisco XCP Text Conference サービスをオンにしないか、IM and Presence Service のパーシステントチャットの外部データベースを設定しないことを推奨します。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM IM and Presence Administration にログインし、[メッセージング (Messaging)] > [設定 (Settings)] を選択します。

ステップ 2 インスタントメッセージングを設定します。次のいずれか 1 つの処理を実行します。

- IM and Presence Service クラスタのクライアントアプリケーションにおけるインスタントメッセージ機能をオンにするには、[インスタントメッセージを有効にする (Enable instant messaging)] のチェックボックスをオンにします。この設定をオンにすると、クライアントアプリケーションのローカルユーザはインスタントメッセージを送受信できます。
- IM and Presence Service クラスタのクライアントアプリケーションにおけるインスタントメッセージ機能をオフにするには、[インスタントメッセージを有効にする (Enable instant messaging)] のチェックボックスをオフにします。

(注) この設定をオフにすると、クライアントアプリケーションのローカルユーザはインスタントメッセージを送受信できません。ユーザは、プレゼンスステータスおよび電話操作にのみインスタントメッセージアプリケーションを使用できます。この設定をオフにすると、ユーザはクラスタの外部からインスタントメッセージを受信しません。

ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 4 Cisco XCP Router サービスを再起動します。

オフラインインスタントメッセージのオン/オフ

デフォルトでは、IM and Presence サービスはユーザがオフラインのときにユーザに送信されたインスタントメッセージを（ローカルに）保存し、ユーザが次にクライアントアプリケーションにサインインしたときに、IM Presence サービスはこれらのインスタントメッセージをユーザに配信します。この機能をオフに（抑制）して、IM and Presence サービスがオフラインインスタントメッセージを保存しないようにすることができます。



(注) IM and Presence サービスはオフラインメッセージを1ユーザあたり100個、1ノードあたり最大30000個に制限します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)]>[メッセージング (Messaging)]>[設定 (Settings)]を選択します。

ステップ 2 オフラインインスタントメッセージングを設定します。次のいずれかの操作を実行します。

- IM and Presence サービスのオフラインインスタントメッセージのストレージをオフにするには、[オフラインインスタントメッセージの抑制 (Suppress Offline Instant Messaging)]のチェックボックスをオンにします。この設定をオンにすると、IM and Presence サービスはユーザがオフラインのときにユーザに送信されたインスタントメッセージを、ユーザが次にクライアントアプリケーションにサインインしたときにユーザに配信しません。
- IM and Presence サービスのオフラインインスタントメッセージのストレージをオンにするには、[オフラインインスタントメッセージの抑制 (Suppress Offline Instant Messaging)]のチェックボックスをオフにします。この設定をオフにすると、IM and Presence サービスはユーザがオフラインのときにユーザに送信されたインスタントメッセージを、ユーザが次にクライアントアプリケーションにサインインしたときにユーザに配信します。

ステップ 3 [保存 (Save)]をクリックします。

インスタントメッセージでのカットアンドペーストの許可

ユーザがコンピュータでインスタントメッセージ履歴をローカルにログ記録することを防止または許可できます。クライアント側では、アプリケーションがこの機能をサポートしている必要があります。これは、インスタントメッセージのログ記録の防止を実行する必要があります。

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)]>[メッセージング (Messaging)]>[設定 (Settings)] を選択します。
- ステップ 2** 次のようにインスタントメッセージ履歴のログ記録の設定を行います。
- クライアントアプリケーションのユーザに IM and Presence サービスでインスタントメッセージ履歴のログ記録を許可する場合は、[クライアントでインスタントメッセージ履歴のログ記録を許可 (サポートされるクライアントでのみ) (Allow clients to log instant message history (on supported clients only))] をオンにしてください。
 - クライアントアプリケーションのユーザに IM and Presence サービスでインスタントメッセージ履歴のログ記録を許可しない場合は、[クライアントでインスタントメッセージ履歴のログ記録を許可 (サポートされるクライアントでのみ) (Allow clients to log instant message history (on supported clients only))] をオフにしてください。
- ステップ 3** [保存 (Save)] をクリックします。

インスタントメッセージでのカットアンドペーストの許可

ユーザがコンピュータでインスタントメッセージ履歴をローカルにログ記録することを防止または許可できます。クライアント側では、アプリケーションがこの機能をサポートしている必要があります。これは、インスタントメッセージのログ記録の防止を実行する必要があります。

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)]>[メッセージング (Messaging)]>[設定 (Settings)] を選択します。
- ステップ 2** 次のようにインスタントメッセージでのカットアンドペーストの設定を行います。
- インスタントメッセージでカットアンドペーストすることをクライアントアプリケーションのユーザに許可する場合は、[インスタントメッセージのカットアンドペーストの許可 (Allow cut & paste in instant messages)] をオンにします。
 - インスタントメッセージでカットアンドペーストすることをクライアントアプリケーションのユーザに許可しない場合は、[インスタントメッセージのカットアンドペーストの許可 (Allow cut & paste in instant messages)] をオフにします。
- ステップ 3** [保存 (Save)] をクリックします。

■ インスタントメッセージでのカットアンドペーストの許可